

## 光化学スモッグ注意報と本県の光化学オキシダント濃度

自動車や工場の排出ガスに含まれる窒素酸化物や炭化水素などが、太陽の強い紫外線を受けると、「光化学オキシダント」が生成します。この光化学オキシダントが大気中に高濃度に発生すると、白くモヤがかかったようになります。この状態を「光化学スモッグ」と呼んでいます。光化学スモッグは、人や植物などへ悪影響を及ぼします。人への影響として、目がチカチカする、ノドが痛い…などといった被害が報告されています。

光化学オキシダントの大気中濃度が0.12ppmを超えて、それが長時間続くと判断された場合には、「光化学スモッグ注意報」が発令されます。従来、光化学スモッグは、大都市圏や工業コンビナート地帯で、風が弱く、日差しが強い夏の日に発生しやすいものでした。しかし、昨年から今年にかけて、九州地方では春期に注意報が発令され、そのために小学校の運動会が中止するといったことがありました。この光化学オキシダント濃度の上昇は、経済発展の著しい中国大陸で増加した大気汚染が、国境を越えて日本へ影響していることも一因と考えられています。

沖縄県では過去に光化学スモッグ注意報が発令された事はありません。過去5年間の光化学オキ

シダントの昼間の最高濃度（1時間値）は図のとおりで、0.09ppm程度です。

しかしながら近年、九州地区では初めて注意報を発令した地域が複数あります。本県でも今後の光化学オキシダント濃度の動向は注視していく必要があります。測定体制の拡充を含めて検討中です。

【環境科学班】



光化学オキシダントの年間最高値（昼間の1時間値）

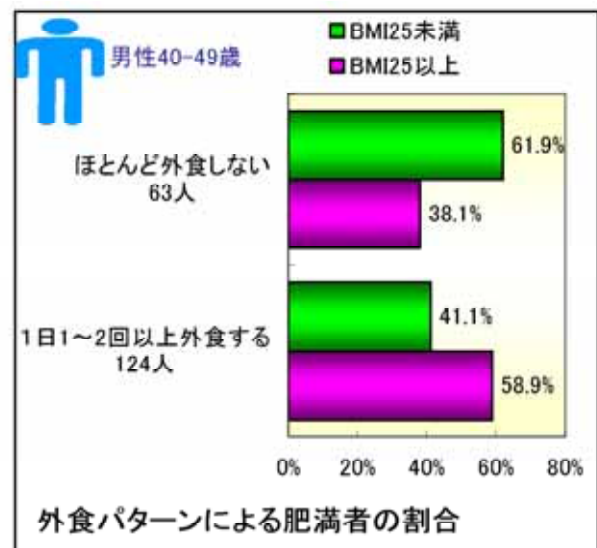
## 外食や店屋物の摂取状況とBMI

本県の企業や一般住民の健康診断で行われた食生活に関する問診結果について、平成元年度から平成17年度の17年間の年次推移を男女別・年齢階級別に調べたところ、『男女共に外食や店屋物を食べる頻度が年々多くなっている』ことが分かりました。（集計対象：男性22,593人、女性14,112人）

「外食や店屋物の摂取状況」という問診項目についての年次推移をみると、「ほとんど毎食食べる」と答えた人の割合は、男性では全年齢階級で増加し、また、女性でも49歳以下の年齢階級で増加しています。「1日1～2回食べる」と答えた人の割合は、女性で59歳以下の年齢階級で増加しています。一方、「ほとんど食べない」と答えた人の割合は、男女共に59歳以下の年齢階級で減少しています。

また、平成17年度データについて、外食の頻度とBMI（ボディマス指数：25を超えると肥満とされており、生活習慣病にかかりやすくなると言われていいます）の関連を、男女・年齢階級にグループ分けして調べたところ、男性40～49歳の、1日1～2回以上外食するグループでBMI25以上の人は多く（59%）、ほとんど外食しないグループでBMI25以上の人は少ない（38%）、という結果が得られました。

他のグループについては、外食の頻度とBMI値の



明確な関連は確認できませんでした。

外食や店屋物を中心とした食生活は、カロリー摂取が多くなりがちです。生活習慣病を予防するためにも、バランスのとれた食生活を心がけましょう。

【企画管理班】